

希望があることが分かる。

寛永十九年、敬台院は大施主となり、江戸法詔寺二代住職日感上人を願主として、上総国（千葉県大網白里市）に細草檀林（遠露寺）を建立寄進した。旗本水野家に嫁いだ次女万も十両を寄進している。ここは明治にいたるまで大石寺の学僧たちの勉強・修行の道場となった。また、敬台院は大石寺にも広布資金として百両を供養した。

正保二年（一六四五）、敬台院は夫至鎮の菩提を弔うため、江戸にあった法詔寺を徳島に移転することを幕府に願い出た。大滝山（徳島市眉山町）にあった臨済宗観音院を移転させた跡に心蓮山敬台寺を建立し、日重を初代住職とした。徳島藩から二百石の扶持米が与えられた。寺域四町歩（四千方メートル弱）あり十四間四方の本堂のほか書院、方丈、土蔵、御霊屋などさまざまな建物がたてられ、書院の壁には金銀珠玉がちりばめられていたという。同じ年、家康の征夷大將軍就任の折に拝領していた矢上村内（徳島県板野郡）の臨済宗正法寺を女人成仏を説く法華宗に改宗、再建するとともに全村民まで改宗させるという大難事を果たした。

改宗に際し、それまでの寺領三石余りに約五石を加え、諸役を免除した。「敬台院 日詔」の署名のある承応二年（一六五三）の寄進状が残る。

この頃、家老益田豊後と徳島藩との間で豊後の知行地である海部郡をめぐって十三年に及ぶお家騒動が発生しており、豊後は藩の不正を幕府に訴えたため、藩主忠英は出仕をはばかって蟄居していたが、敬台院が老中らに働きかけ、事件は解決し忠英は許された。